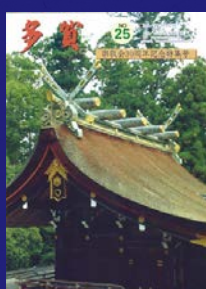


多賀



No.61

平成31年3月1日発行



四月から九月の祭事暦

四月

- 神武天皇遥拝 四月 三日(水)
- 御使殿大御供式 四月 十四日(日)
- 馬頭人大御供式 四月 十八日(木)
- 宵宮祭 四月 二十一日(日)

●古例大祭 四月二十二日(月)

- 後宴祭 四月 二十三日(火)
- 昭和祭 四月 二十九日(月)

五月

- 米寿薙寿祭 五月 十一日(土)
- 喜寿薙寿祭 五月 二十三日(木)

六月

- 御田植祭 六月 二日(日)
- 金婚薙寿祭 六月 八日(土)
- 崇敬会会員大会 六月 二十二日(土)
- 六月古例祭 六月 三十日(日)

七月

- 夏越大祓式 六月 三十日(日)
- 九月頭人差定式 七月 一日(月)

八月

- 万灯祭 八月 三・四・五日(土・日・月)

九月

- 九月古例祭 九月 九日(月)
- 傘寿薙寿祭 九月 十七日(火)
- 拔穂祭 九月 二十二日(日)
- 秋季皇霊祭遥拝 九月 二十三日(月)
- 池坊献華式 九月 二十七日(金)
- 講社大祭 九月 二十八日(土)

諸祭

- 御日供祭 毎日午前七時より
- おついたら参り 元日を除く毎月一日の午前七時より

月次祭

- 元日を除く毎月一日・十五日



古例大祭



平成の御代の最後を飾る古例大祭が本年も四月二十二日に斎行されます。

本年の栄えある馬頭人は北川武夫氏、御使殿には中溝柊悟氏（しゅうご）がご奉仕され、当日は絢爛豪華な騎馬行列が町内を練り歩きます。

鎌倉時代から脈々と続くお多賀さんの古例大祭は時代が移り変わるうとも、湖国随一の春祭りとして斎行され続けます。



馬頭人

きたがわ 北川 武夫 氏

昭和12年5月24日生（81歳）

- ・住所 彦根市鳥居本町
- ・現職 (株)北川鉄工所 会長



御使殿

なかがみぞ 中溝 柊悟 氏

平成8年11月29日生（22歳）

- ・住所 犬上郡多賀町一円
- ・代和ビジネス(株) 勤務



午前八時三十分	本殿祭
午前十時三十分	本社出発
午前十一時三十分	調宮神社に到着
午後一時	調宮神社を出発
午後二時	本社前を通過 (馬頭人・御使殿合流)
午後二時三十分	尼子のお旅所に到着
午後三時三十分	富ノ木渡し式
午後四時	尼子のお旅所出発
午後五時	本社到着 夕日の神事

※平成31年1月現在

祈年祭（豊年講春季大祭）

三月十七日、恒例の祈年祭が斎行されます。
 本年は、東近江市豊椋地区大世話係 戸嶋滋一氏が祈年使をご奉仕されます。

豊年講春季大祭祈年使を奉仕するにあたり

祈年使 戸嶋 滋一 としま しげかず



今年は平成最後の祈年祭であり、新しい時代に収穫される初穂の豊作を祈る重大な祭典となり、このような年回りに大役を頂いたことは人生の中で何よりの喜びであります。

お多賀さんと私は、昭和四十三年に結婚式を挙げさせて頂き、昨年は金婚式にもお招き頂きました。また還暦の豆まき奉仕、崇敬会を通じて誕生祝いなど私の生活にはいつもお多賀さんがあり、今回の大役も「ご縁である」と深く感謝しております。

また、毎年正月には、妻と三人の息子夫婦、六人の孫達と共に初詣に訪れ、大神様の「ご縁」を家族皆が頂き、日々の生活を送ることが出来ることは感謝に堪えません。

健康長寿のお多賀さんのご縁を頂く私自身、七十七歳を迎える今でもレイカディア大学での生涯学習、寺社庭園の剪定ボランティアなどに従事させて頂いており、中でも五年前から習い始めた「竹燈籠作り」を趣味とし、教室の仲間と作品作りに勤しみ毎日充実した日々を送っています。

当日は皆様にご指導頂きながら豊年講員の代表として精一杯ご奉仕申し上げさせて頂きます。

境内紹介

8

三本杉（さんぼんすぎ）



本社より六キロ程離れた地に「三本杉」と称されるご祭神伊邪那岐大神ご降臨ゆかりの御神木がそびえたっています。

訪れるとその地にふさわしい大変神秘的な場所であります。

車でのアクセスは可能ですが、狭隘な山道になりますので、十分注意して下さい。



お多賀さん

平成三十年のあゆみ

平成元年

御朔日詣り開始

平成二年

大口善有宮司就任

ご大典奉祝行事

平成六年

参集殿改修工事完了

平成九年

中野幸彦宮司就任

平成十三年

崇敬会創立三十周年記念大祭

平成十八年

「多賀大社社殿十一棟・奥書院障壁画二十七面」
多賀町文化財に指定

平成十九年

本殿遷座奉祝祭に天皇陛下より幣帛料下賜
本殿遷座祭
本殿遷座奉祝祭齋行



ご大典
奉祝行事



御朔日御幣



本殿遷座祭

天皇陛下 御譲位・御即位 御事

今上陛下が御即位三十年を迎えられましたことは、
日本国民として大変めでたい事でこの上ない喜びでございます。
来る、五月一日には御譲位が行われ
新しい時代が幕を開けようとしています。

◆ 譲位

退位礼正殿の儀

四月三十日(火)

◆ 践祚の式

剣璽等承継の儀

賢所の儀

皇霊殿神殿に奉告の儀

即位後朝見の儀

五月一日(水)

◆ 即位礼

高御座^{たかみくら}に登られ、内外に即位を宣明。

十月二十二日(火)

◆ 大嘗祭

十一月十四日・十五日(予定)
天皇御一代に一度行われる祭祀。悠紀・主基の国のお
米をはじめ、全国の各都道府県より特産の農水産物が
お供えされます。

※日付は一部報道による予定も含みます。

平成二十三年

木村光伸宮司就任

崇敬会創立四十周年記念大祭

高円宮久子妃殿下ご参拝

平成二十四年

第六十二回神宮式年遷宮奉祝事業

「親子神様詣り」開始

神仏合同国家安泰世界平和祈願祭斎行

全国多賀さんまつり斎行

平成二十六年

官幣大社列格百年記念祭

平成二十七年

犬上岳宮司就任

平成二十八年

多賀の杜整備事業着手

東大寺別當

狭川普文氏ご参拝

光とアートで発信する

ブランディング事業

表参道絵馬通 改修

平成三十年

神輿庫屋根葺替工事



表参道絵馬通 改修



神輿庫屋根葺替工事



光とアートで発信する
ブランディング事業開始



神仏合同国家安泰
世界平和祈願祭斎行

◆譲位

天皇が皇太子に皇位（天皇の位）をお譲りになり、天皇は上皇となられ、皇太子が新たな天皇となられます。これを「譲位」といい、光格天皇が仁孝天皇に譲位されて以来、約二百年ぶりのこととなります。

退位礼正殿の儀

天皇陛下の御譲位を広く国民に明らかにするとともに、陛下が御譲位前に、最後に国民の代表者に会われる儀式が、皇居の宮殿で行われます。

◆践祚の式

「践祚」は、天皇が皇位につかれることで、践祚の後、天皇がそれを公式に国内や諸外国に宣明（宣言して明らかにすること）することが「即位」です。昭和の時代までは厳密に区別されましたが、平成の御代替りでは、すべてを「即位」としています。

改元

新しい天皇の御代になると元号が改められます。

かつては御代替り以外にも様々な機会に改元が行われましたが、明治以降、皇位継承があった時に限り行われるようになりました。よって元号は、ときの天皇の御代を表象するものといえます。元号は、良い意味を持つ二字を用いることとなり、国民の理想として相応しい字が充てられます。

御代替り、祝日には国旗を掲げてお祝いしましょう。

日	月	火	水	木	金	土
4月21日	22	23	24	25	26	27
28	29 昭和の日	30 天皇陛下御譲位	5月1日 新天皇御即位・改元	2	3 憲法記念日	4 みどりの日
5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9	10	11

※祝日は一部国会で審議中のものも含まれます。

節分祭

鬼は外!
福は内!

二月三日、恒例の節分祭が斎行されました。
福豆まきは、めでたく還暦を迎えた一五九名の年男・年女がご奉仕されました。

奉仕者ご芳名(順不同・敬称略)

◆愛荘町	家森 康和	北川 貢次	雨森 秀隆	杉田 房一	村林 都	大野 修弘	田中 義信
小泉 勝敬	玉木 正生	北川 正恵	吉内 雅子	北川 太	井口 嘉久	谷口喜太郎	中野 孝男
上林 豊美	藤森 政次	富永 喜弘	高山甚一郎	角川 茂孝	小西 順二	谷口 房美	松井 正幸
北村 豊子	西出 紀子	◆長浜市	富永 喜弘	丸岡 昭浩	富永 繁紀	柚木 記久雄	柚木 静恵
吉岡 清美	◆甲良町	坂東 政博	本野 宇市	嶋崎 則子	◆彦根市	藤野 功	◆竜王町
◆近江八幡市	尾本 喜吉	清水 義康	松崎 靖	藤田 彦雄	藤野 功	滝本 登	若井 幸司
島上 豊	◆多賀町	中川 隆司	四塚 善弘	宮部 長二	馬場 博行	馬場 将博	山田 清広
深井 幸一	山本 巖	柴田 善成	柴田 富美子	石光 文博	橋本 善美	元持 誠	竹村 直樹
南 善昭	野村 仁	伊藤 弘之	山田 昌宏	川並 薫	大塚耕太郎	元持 真弓	川嶋 健市
中江 吉治	中嶋 孝子	田嶋 孝志	多賀 長人	川瀬 良次	福原 康広	西澤 昌人	島田伊久三
辻 正隆	大久保喜久夫	小林 彰	多賀 輝実	中川 広実	北川 忍	西澤 昌弘	島田 典子
垣見 哲夫	神鳥 幹彦	赤川 顕次	多賀 健次	落合 哲也	馬場 完之	須戸 郁生	石田 宣幸
川部 善明	小菅 邦彦	四居 雅生	藤森 善弘	前川 勇治	嶋津 茂昭	須戸 千明	
川部 明	小井戸善光	中村 匡志	木原 邦彦	岡田 豊彦	林 典子	村田 松男	
成田 忠夫	◆知多市	樋口 昌弘	押谷 小助	岡田 恵子	◆日野町	吉澤 郁一	
坂本 信之	加藤 順也	那須 賢三	北川 厚士	藤井 国宏	◆守山市	金森 昭彦	
畑 与史伸	◆豊郷町	坂東 俊孝	中島 基	◆東近江市	山本 博		
溝井 秀次	岩崎 昌司	山口 善博	清水 正人	小沢 真	坂田 千賀子		
◆甲賀市	野村 治正	宮田 和憲	河瀬 隆洋	村林 清茂	清水 和子	◆栗東市	
藤橋 忠史	広瀬 高規	柳田 正文	中川誠一郎	澤 貢	藤澤久美子	山田 秀幸	
福井 治夫	西山 康博	山本 助幸	河瀬 均	澤 さとみ	久野 依子	中野 利弘	
西宮 久雄	西山 康子	野洲 寿昭	杉山 佳弘	村林 一寿	奥井 幸三	園田 孝司	
原田千加子							

御礼

福豆奉納
鬼神楽奉納

神崎 治
因原神楽団



車進入路鉄扉門改修

境内に二カ所ある車進入路の鉄扉門が景観に合った木調の門に改修されました。

同工事も多賀の杜整備事業の一環で、太閤橋周辺から始まった同事業は皆様のご協力を得て順調に進んでいます。



名神多賀スマートインター(仮称)事業が許可される

多賀町や近郊自治体の長期にわたる働きかけがこの度実を結び、昨年夏、名神高速道路に多賀スマートインターチェンジを開設する事業許可が国土交通省に認可されました。供用開始は四年後を予定しています。



同インターが開設されると当社へのアクセスは大変便利になることから大いに期待をしています。

車戸川側壁石積並びに石玉垣修復工事

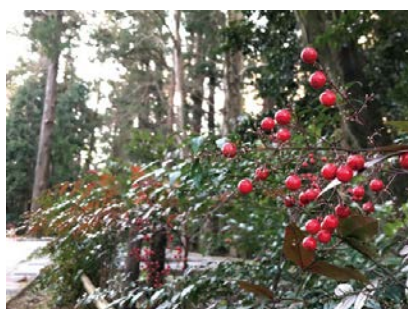
車戸川の石積は文化年間(江戸時代後期)の施工と推測され、石玉垣は昭和大造営時の整備、補修と考えられています。当社の歴史と共に流れる清流を支えてきた河川壁は、



現在経年劣化による崩落が危惧されており、この度、多賀町の有益な景観を守るため、町からの助成も得て御代替わり奉祝事業の一環として、三ヶ年に渡る修復整備を進めることになりました。

南天植樹奉納

この度、浜松市の植木神社奉賛会より南天の木が昨年と今年で計百本奉納され、境内各所に植樹されました。植木神社には当社のご祭神がご分霊としてお祀りされており、長きに亘りご縁を頂いております。赤く染まった南天の実、冬は境内に彩りを添え、参拝者の目を楽しませてくれることでしょう。



計報

多賀大社宮司 故犬上 岳 儀

犬上宮司は平成二十七年四月より、宮司に就任し精励してまいりましたが、病により、去る一月二十二日逝去致しました。ここに生前のご厚誼を深謝し謹んでお知せ申し上げます。

犬上宮司は昭和二十三年に多賀の地に生まれ、四十六年國學院大學を卒業し、同年和歌山県、熊野那智大社にて神職の道を歩み始め、四十八年には兵庫県、長田神社に転じ、五十六年に故郷の多賀大社に奉職し、爾来四十余年神勤されました。

宮司就任後は特に将来を見据えて神社運営管理に重きを置き、「多賀の杜」整備事業や各組織事業の改革に尽力されました。志半ばでの逝去は心残りであったと思われれます。また当社一の達筆家であり、書き物を一手に担っておられ、素晴らしい書の数々を残し旅立たれました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

尚、葬儀は近親者のみの密葬にて行われ、多賀大社葬を三月二十日に執り行います。



平成元年より平成30年までの社報多賀表紙

金婚筵寿祭のご案内

当社は夫婦神様をお祀りしている事に因み、結婚五十年を迎えられたご夫婦をご案内し金婚筵寿祭を斎行いたします。

本年は六月八日(土)に斎行致しますので、ご参列ご希望の方は神社までご連絡下さい。ご案内状をご送付致します。

◆ 本年対象

昭和四十四年・四十五年

ご結婚のご夫婦

Tel. 〇七四九(四八)一一〇一
筵寿祭係まで



編集後記

当社には現在三十九名の職員が奉職しています。平成最後の社報編集に伴い職員動静を調べたところ、昭和入社は僅か二名で、他三十七名は平成入社でありました。

人の記憶には昭和が鮮明に残っていますが、時代は少しずつ更新されていることが分かります。千三百年以上続く多賀大社の歴史の中では、それこそ一人の職員の奉職期間は点に過ぎません。しかし点の連続が線となり歴史として更新されていくのだと思います。

平成最後を間近に控え、我々職員一同は心新たに多賀大社の護持運営に努めて参りたいと思います。